

ぱれっと

11 2013
月 No.171

“ぱれっと”には、サポセンにいろいろな人が集まり、それぞれの色（個性）が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく…そんな願いがこめられています。

sapo

仙台市泉区社会福祉センターまつり
市民活動の相談受付けてます！出張サポセン



P2 ～ P3 **協働** のまちづくり SENDAI ▷

復旧から復興へ - 農業で地域おこし -

P4 **つながる つなげる サポセン**▷ ハジマル、フクラムプロジェクト おっかけレポート！

P5 **シニア横丁日記**▷ 夫婦そろって、地域を住みやすくするため奮闘中

P6 **仙台市市民活動サポートセンターからのお知らせ**



社会の課題を解決するためには、市民・企業・行政が連携して取り組む“協働”が重要です。仙台の市民活動における協働の事例や関連情報をお伝えします。

復旧から復興へ ― 農業で地域おこし ―

東日本大震災直後から、仙台市若林区七郷を拠点に、被災した農家のサポート、津波被害に遭った農地再生に取り組んできたボランティアグループ ReRoots(リルーツ)。現在も地元大学生を中心に、お盆や年末年始を除き、ほぼ毎日活動しています。コンセプトは、「復旧から復興へ、そして地域おこしまで」。

今回は、ReRoots と地元農家さんが協力し合うからこそできる、これからの復興への想いをうかがいました。

活動はいつも現実からスタートする

東日本大震災後、ReRoots は農地再生のため、全国からのボランティア 2 万人以上をコーディネートし、沿岸部の広大な農地の復旧作業を行ってきました。大きな瓦礫がなくなった後も、耕作の妨げとなる小さなガラスや石拾い、炎天下の草刈りなど、地元農家さんたちとの地道な作業は続きます。今では、少しずつ若林区の美味しい野菜を味わえるようになりました。

しかし、復興はまだまだこれから。「農地が再生し、農家が農業を再開することだけが復興ではありません。農業を元気にするためには、地域づくりが重要です」と話すのは、ReRoots 代表の広瀬剛史さん。農業は水路の土砂やゴミを取り除く掘り払いや草刈りなど、コミュニティの共同作業で成り立っています。そのため、震災によってばらばらになったコミュニティ、過疎化、震災前からあった後継者不足などの問題は「復興」にとって重要な課題です。「生業にのみ着目するのではなく、農村としての発展に着



▲ 代表の広瀬剛史さん

目し、農業、景観、人の往来、コミュニティ、自然科学など総合的に考え、それらを活性化させていかなくは、本当の意味で農業はうまくいかず、復興もできない」と話します。



▲ さつまいもプロジェクトには多くの方が参加しています

常に現実に向き合い活動する ReRoots は、被災地域や農業の課題に対し、地元農家と協働することで多くのプロジェクトを実施し、地域おこしに取り組んでいます。(P3 図)

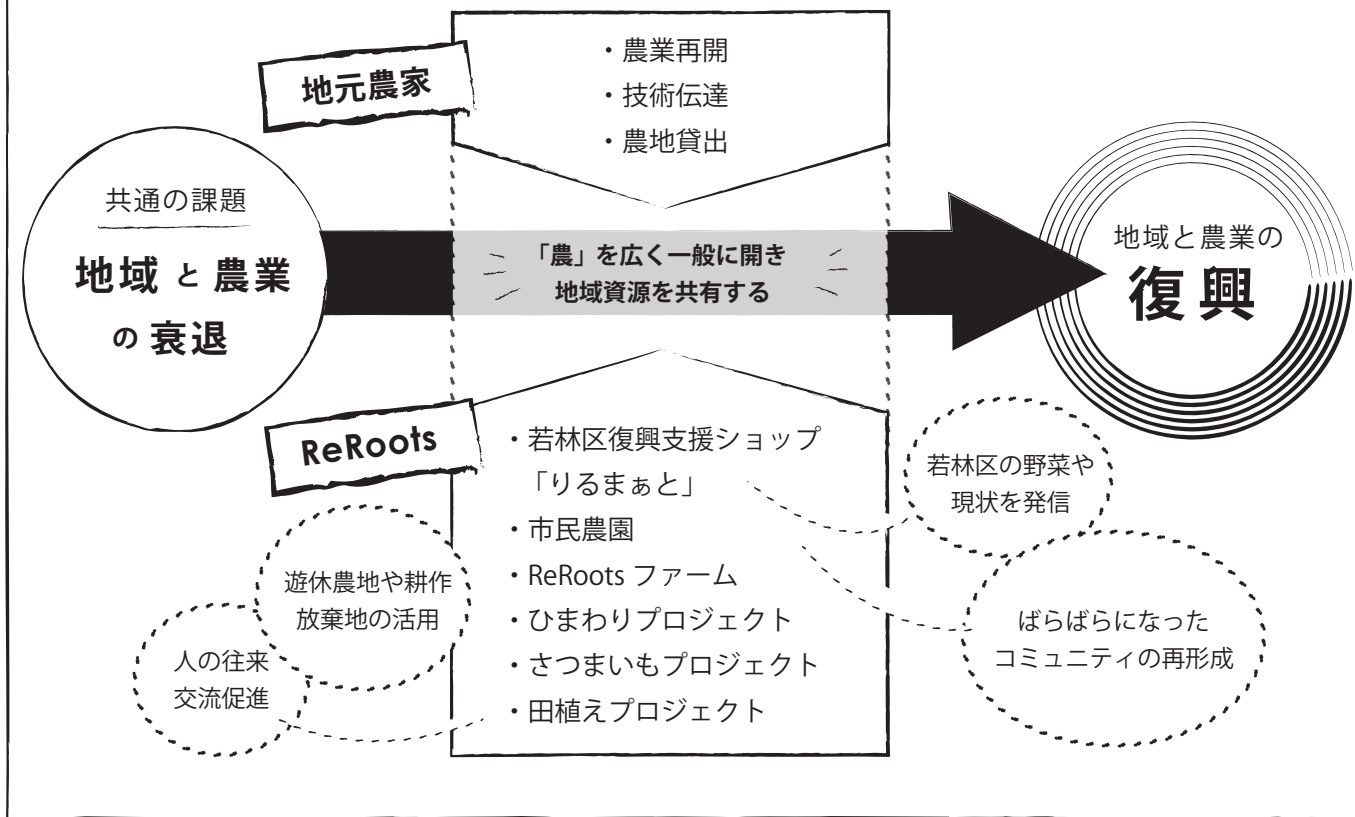
農業から学ぶ、「復興」のありかた

現在 ReRoots では、主に地元の大学生約 50 名が活動しています。地元農家が講師を務める農業体験企画の 1 つ、「さつまいもプロジェクト」。ReRoots と協働して行う三本塚の農家佐藤勝五郎さんは「暑い日も、寒い日も一生懸命作業する学生の姿に感動した」と言います。佐藤さんの農地は津波にのまれ、その復旧作業に ReRoots がボランティアに入ったのが交流の始まりでした。

さつまいもプロジェクト担当の ReRoots 稲田さんから「さつまいも作りを教えてほしい」と申し出があったときも、ボランティアの方々への感謝の気持ちと若者の復興に対する熱意に惚れ、すぐに引き受

協働のポイント

農地復旧が進み、生産を基本とする農家だけではなかなか取り組めない「地域おこし」を、ボランティアという柔軟な立場の ReRoots が介在し、協力し合うことで、多くの人の関わりを生み、本当の意味での地域と農業の復興を実現していきます。



けたそうです。佐藤さんは、「農業は天候に左右される。しっかり育てないと作物はうんと正直だからね。これからの復興に、若い方の熱意や、辛い仕事からも逃げ出さずに取り組む粘り強さが大切。決して金儲けではない。「お互い様」と助け合いながら、厳しい自然の中で心をこめて作物を育てた経験を、これからの人生、社会に生かしてほしい」と熱い想いを話します。

「この土地に合うこと」を大切に

「いろいろな人が交流する機会は、これからの農業や復興には欠かせない」と農家である佐藤さんも想いは同じですが、地域おこしは、生産を基本とする農家だけではなかなかできません。ReRoots は、復旧しつつある農業の中に、地元の魅力や農業の課題を解決するためのプロジェクトをちりばめ、「復旧から復興へ、そして地域おこしまで」を地元住民と実現しようとしています。

「この土地のさまざまな文化を繋げていきたい」と話す広瀬さんは、今後、新規就農者を受け入れるファームステイを行ったり、若林区の食、防災教育、農業体験などを通して、地域の歴史や自然を学び合



う交流の場、地域の魅力発信の場としての農地を、地域住民とともに形作っていききたいと意欲を燃やします。

(松村翔子)

▲ 左：さつまいもプロジェクト担当の稲田純也さん
右：地元農家の佐藤勝五郎さん

団体情報

一般社団法人 ReRoots

〒984-0033

宮城県仙台市若林区荒浜字今泉 59-3 地

TEL : 022-762-8211

Mail : reroots311@yahoo.co.jp

HP : <http://reroots.nomaki.jp/>

おっ
かけ
れぽーと！

ハジマル、フクラム プロジェクト

このプロジェクトでは、「ハジマル、フクラムトークナイト」と題し、毎回さまざまな分野で活動するゲストをお招きしてトークイベントをひらきます。自分の好きなこと、気になること。そこから始まった色々な活動と、はじめた人たち。そんな活動や人との出会いをきっかけに、互いのアイディア、想いをモクモクとふくらませていくプロジェクトです。今回は、トークナイトに参加した方々の「その後」の活動をご紹介します！

▶ vol.1 「本」からハジマル、フクラムトークナイト 参加

すずき まりこ さん／写真愛好家

無類の本好きの私。「本からハジマル」の言葉に惹かれて参加しましたが、ゲストの方や参加者の方がそれぞれの思いをカタチにしているお話をきいて、とても刺激を受けました。「私も何か行動したい！」。トークナイトでの出会いが、後押ししてくれました。キーワードを自分の好きな「写真」に置き換え、以前からリクエストを頂いていた写真の撮り方レッスンをスタートしました。自信がなくてずっと踏み出せずにいた最初の一步でしたが、思い切って行動することで、素敵な出会いがあり、活動の輪が広がっていくことを実感しています。



▶ vol.2 定禅寺ストリートジャズフェスティバル (JSF) を3倍楽しむ方法 参加

北澤 航 さん／東北ろっけんぱーく

このトークナイトに参加したのは、JSF 実行委員会に知り合いがいたのがきっかけでした。今まで観客として見ていた JSF でしたが、一過性でなく毎日でもやりたいという実行委員会の方々の想いや、手作りでイベントを創り上げる取り組み方を知り、感銘を受けました。

私は音楽で街を盛り上げたいと思っています。ろっけんパークでは演奏場の貸し出しが可能です。今後、JSFとの関連イベントとして、クリスマスなど季節のイベントを定期的に行うなど、商店街を盛り上げる活動ができれば、と想いがふくらんでいます。

つながる
つなげる
サポセン

普段の暮らしの中で、「おかしいな」「こうしたらもっと暮らしやすくなるのにな」と感じることはありませんか？でも何からはじめていいかわからない。そんなときは、自分の好きなことや得意なことを生かしてみるのはいかがでしょうか。市民活動と聞くと少し難しい気がしますが、始まりは普通の市民の小さな思いから。小さな行動が少しずつ共感呼び、仲間にそして社会に広まり、社会を動かすチカラになります。サポセンは、そんな思いや活動を応援しています。

まだ・これ

シニア 横丁図記

「シニア横丁」は、まだまだ、これから！ 50 歳後半からのセカンドライフに意欲を燃やす人や情報が集まる場所。これから新しい一步を踏み出そうとしている方は、ちょっと寄っていきませんか。

夫婦そろって、地域を住みやすくするため奮闘中

地域支え合い活動ボランティアグループ スマイル河原町 代表 落合利子さん 事務局 落合哲夫さん

今回で紹介する、落合利子さんと哲夫さんは、2013年5月に「スマイル河原町」を地域の仲間5人で立ち上げました。毎月2回コミュニティーセンターを会場に開催されるサロンは、ネクタイを再生したポーチ作り、手ぬぐいを利用した帽子作りなどの手仕事を通して、地域の方々が集まり交流する場所となっています。ともに代表と事務局として、精力的に活動を展開しているお二人にお話を伺いました。



「地域の方々が気軽に集まれる場所」をつくりたい

「使わなくなったネクタイをほどいて作り直すと、こんなステキなポーチになるんですよ」と、楽しそうに語る利子さん。「今まで一人暮らしで引きこもりがちだった方も、サロンに通ううちに、だんだん明るく社交的になっていくのが嬉しいですね」。利子さんは、震災後、カンボジアへの支援活動を行っている公益社団法人セカンドハンドが、被災者支援として取り組んでいるコミュニティーショップのスタッフとして働いていました。その経験をもとに始めた今の活動。楽しくてやりたいことが次々湧いてくるという利子さんですが、意外にも、これまでボランティアや地域での活動をしたことが無いそうです。「専業主婦として、子育てを終えて…親の介護をする中で多くの方々に助けられたので、私にできることがあったら何かやりたいと思っていました」。持ち前の人を惹きつける明るさと、心の奥に眠っていた思いが活動の原動力になったようです。

二人で同じ思いを共有

一方、哲夫さん。オーディオ関係の会社で働いていましたが、2005年頃、ご自身の親の介護を余儀なくされ、福祉への関心が強まったと言います。

「何でも徹底してやらないと気が済まない性分なんです」。自らヘルパー2級の資格を取って、親の介護に専念。「当時は介護保険制度が始まったばかりで、介護の担い手となる男性は、まだまだ少なかった時期でしたね」。会社を退職した後は、自らの介護経験とそこで学んだ知識をもとに、障害者施設で働いています。

利子さんが、活動を軌道にのせるため試行錯誤しているのを見ているうちに、事務局の仕事を手伝うようになったと言います。地域の福祉に日頃から関心を持っていた哲夫さん。「悩んでいないで、自分たちでできることをやればいい」という周囲のアドバイスにも後押しされ、「スマイル河原町」の活動に本腰を入れて関わるようになりました。

みんなで支えあって暮らせる地域づくりを目指して

「高齢化が進み各家庭への負担が増えていくのか、子どももお年寄りも融和を図り、お互いが見守りあって暮らしていける地域にしていきたいですね。地域に誰でも気軽に集える拠点を持つことが夢です」と語るお二人。シニア世代には、「地域の中で自分の関心のあることを見つけて、体験して欲しいですね」と、行動を起こすことの大切さを教えていただきました。（葛西淳子）

仙台市市民活動サポートセンターからのお知らせ

支援のかたち

2013

12/11 (水)

15:00 ~ 17:00

被災地での支援活動を紹介し、支援活動のはじまりとこれからの課題について語ります。

テーマ

被災地での
パートナーシップ

発表者

協働の強化書 2013プロジェクト

パートナーシップ(協働)による支援活動についての調査報告と事例発表を題材に、参加者の皆さんとこれからの復興まちづくりにおけるパートナーシップについて考えます。

会場：せんだいメディアテーク 6f ギャラリー 4200

主催：仙台市市民活動サポートセンター・せんだいメディアテーク

協力：協働の強化書 2013 プロジェクト・東北大学大学院経済学研究科非営利組織論ゼミナール(西出ゼミ)・特定非営利活動法人せんだい・みやぎ NPO センター

お問い合わせ：TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042 (仙台市市民活動サポートセンター)

参加無料／申込不要／直接会場へお越しください。



つながる つなげる サポセン

▶仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体や NPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちや、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

▶仙台市シニア活動支援センターとは

シニア世代の地域・社会参加活動を応援していますので、お気軽にお問い合わせください。

▶相談・つながるサロンとは

市民活動サポートセンターとシニア活動支援センターの相談窓口を 3 階に集約し、じっくりで相談いただける環境を整えました。

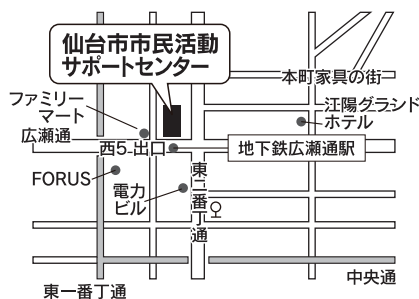
このような相談おまかせください

- ・市民活動の立ち上げ、法人格の取得
- ・団体運営、組織運営
- ・復興支援活動
- ・シニア活動、セカンドライフ相談など

相談時間

- ・平日：午前 10 時～午後 8 時
- ・日祝：午前 10 時～午後 5 時

▶ご案内図



- ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

[最寄りのバス停] 電力ビル前、商工会議所前

[地下鉄] 広瀬通駅下車、西 5 番出口すぐ

- 当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車でご来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

[注] 路上駐車・駐輪は周辺の迷惑となりますのでおやめください。

▶「ぱれっと」読者アンケート にご協力をお願いします！

サポセンホームページからアクセスいただくか、携帯電話等で右記の 2 次元バーコードを読み取ってご利用ください。



編集後記：

10 月 27 日、サポセンは仙台市泉区で開催された「仙台市泉社会福祉センターまつり」に参加し、人気講座をコンパクトにまとめた「NPO ミニいろは塾」を実施してきました。サポセンの中にいたままではめぐり合うことのない“出会い”を経験できる貴重な機会。また、他の施設や組織と連携してより良い市民サービスを提供していくことも大事だと考えているので、今回のお誘いはとても嬉しいことでした。

発行：仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目 1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

HP <http://www.sapo-sen.jp>

Blog <http://blog.canpan.info/fukkou/>

発行日：2013 年 11 月 11 日

編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎ NPO センター

編集人：菊地竜生 菅野祥子 田口博徳 葛西淳子 松村翔子

▽開館時間

平日：午前 9 時～午後 10 時 / 日祝：午前 9 時～午後 6 時

▼休館日

毎月第 2・第 4 水曜日 (祝日の場合は翌日木曜日)

及び、年末年始 (12/29 ~ 1/3)

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎ NPO センターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間 2010 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日]